令 和 ７ 年 度　　学 校 総 合 評 価

６　今年度の重点目標に対する総合評価

「高啼く理想、道を拓かん」の校訓のもと、素直で規律正しく、真面目でひたむきに学ぶ生徒が多い。その一方で将来の目標が定まらず、学校生活への積極性や将来を切り拓いていく意欲がやや弱い生徒もいる。より主体的に、他と協働しながら自らを律して行動する生徒の育成を目指し、アクションプランを設定した。

「学習活動」では、生徒アンケートによって、授業への取り組み方を自己評価した。生徒同士が対話することで授業内容を深め合うことや、教え合いによって学習の定着を図るという項目で、昨年度より達成度がやや低下するなど、生徒の主体性を育む授業展開について一層の取組みが必要である。

「学校生活」では、スマートフォンの使用や交通ルールの遵守について、生徒に目標を設定させ、その達成度を自己評価した。外部講師を招いての講演会を実施し、生徒との対話を通して考える時間を多く設定したところ、いずれも当初定めた目標を上回った。

「進路支援」では、学習習慣の定着を目指し、学習時間を調査し、生徒の将来の進路志望状況を数値化した。タブレットや電子ツールを利用したり、強化週間を設定したりして生徒に意識づけを行ったが, 学年によって取組み状況等に格差が生じた。

「特別活動」では、昨年に引き続き、ボランティア活動を通して地域と交流し、生徒自身の自己有用感を高める目標を設定した。ボランティア参加の延べ人数は増え、目標はほぼ達成することができた。

「ＰＴＡ活動の活性化」では、保護者の研修会への参加数の増加や、相互交流の深化を目指してアンケート調査をした。ＰＴＡ役員による参加募集ポスターの作成や、興味関心を高める研修内容となるよう工夫した結果、目標をほぼ達成することができた。

７　次年度へ向けての課題と方策

「学習活動」では、教員側の工夫としてＩＣＴの活用や授業の改善、互見授業を積極的に行ったが、生徒アンケートは目標を下回った。主体的で対話的な授業展開を模索し続け、教員が一体となって取り組んでいく必要がある。

「学校生活」では、携帯電話の使い方や交通安全意識の高揚など、おおむね目標を達成できた。生徒が自分を客観視し、自己指導能力を高めるような機会もつことが重要である。また、人間力を高めることを目標とし、８種類の力から目標を選び、自己評価する取り組み「Takanaki８」を今年度より始めた。生徒自身が自分を振り返る一助としたい。

「進路支援」では、学習習慣の定着に課題が残った。大学進学を目指す普通科として、受験指導と連動させながら、組織的に生徒にフィードバックしながら次年度継続していきたい。

「特別活動」では、地域の中での人間育成を目指す本校にとって、ボランティア活動は重要な機会である。一層生徒に参加を促すとともに、活動の記録をしっかりと整理させ、生徒自身の自己有用感や自己肯定感を高めたい。

「ＰＴＡ活動の活性化」では、研修への参加者増加に向けて、保護者のニーズをもとに魅力的な活動となるようプログラムを工夫する必要がある。ＰＴＡ役員と協力しながら改善を図りたい。

スクールポリシーで掲げている「自ら拓く」「仲間と拓く」「社会で拓く」を、学校職員で再確認し、地域社会の中で生徒が輝くよう教育活動を展開していきたい。

８　学校アクションプラン

	令和７年度　富山県立八尾高等学校アクションプラン　―１―
重点項目	学習活動
重点課題	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進、改善
現　状	・授業アンケートを参考にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んでいるが、「主体的・対話的」の部分が弱く、積極性に欠けるところがある。今後は、さらに生徒が協働して学ぶことができる環境作りを目指し、より能動的・意欲的に取り組もうとする姿勢を育てる必要がある。
達成目標	・「主体的・対話的で深い学びに関するアンケート項目の質問」において、肯定的回答をすべて８０%以上にする。
方　策	・全ての教科で公開授業を行い、担当する教科の授業と他教科の授業を見学する機会を設ける。見学者からの感想やアドバイスと教科部会での話し合いを通して情報交換を行い、学校全体の授業改善に努める。 ・「授業・学習に関するアンケート」の「主体的・対話的で深い学び」に関する生徒の回答から、授業分析や改善を行い、授業の質の向上に努める。 ・タブレットを効果的に使用した授業に積極的に取り組み、ICT 教育の推進に努める。 ・グループ(ペア)活動に積極的に取り組み、生徒が協働することでより対話的で深い学びの実現を目指す。
達 成 度	・今年度の互見授業は総数で７５回と昨年度の４８回より増加した。しかし、アンケート結果を見ると授業についてはまだまだ改善の必要性を感じる。 【アクティブラーニングに関するアンケート項目・集計】肯定的回答比率

	R3	R4	R5	R6	R7.5月	R7.10月
1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。	92.2	94.7	89.6	89.6	83.6	85.0
2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。	90.3	93.9	82.2	88.3	80.1	81.2
3.先生からの質問や演習、小ﾃｽﾄや課題、ﾍﾟｱﾜｰｸやｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。	92.4	94.5	88.5	90.0	83.3	86.0
4.困っている生徒に教えたことがある。	73.7	74.4	60.4	74.8	64.8	63.0
5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問（相談）する。	83.1	85.4	70.6	81.3	73.4	73.7
6.グループ(ペア)活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。	87.2	91.5	81.8	83.7	77.8	76.1
7.グループ(ペア)活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。	86.7	91.5	78.8	82.5	76.2	75.3
8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。	83.3	86.3	71.4	79.6	72.3	71.2

具体的な取組状況	・互見授業やアンケートなどを参考にしながら授業改善にも取り組んでいるが、積極的な学習活動という点が弱い。 ・タブレットなどのＩＣＴ機器を利用した授業は定着してきている。	
評　　価	D	昨年少し回復した数値がまた低下した。５月と１０月を比較すると、教員の努力も感じるが、課題としていた生徒の積極性はやはり弱い。
学校評議員の意見	・互見授業回数の増加やタブレットを活用した授業実践に心がけ、授業改善に向かっていることは評価できる。 ・アンケート結果より、生徒自身がより自主性や主体性をもって学習に取り組むための方策を是非職員間で話し合って、改善を進めてほしい。	
次年度へ向けての課題	・本校生徒は真面目で優しい生徒が多いが、授業アンケートの結果を見ても主体的・対話的の部分が弱く、積極性に欠ける。学習活動に意欲的に取り組ませるためにも更なる授業改善が必要である。	

（評価の基準　　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

	令和７年度　富山県立八尾高等学校アクションプラン　－２－	
重点項目	学校生活	
重点課題	規範意識の高揚と自己指導能力の育成	
現　状	・スマートフォンについては、数年継続して重点課題に挙げており、使用ルールに違反している生徒もみられるが、学年が上がるごとに、若干ではあるが、違反者は減っている傾向にある。現在、校内では家庭との連絡用に用途を限定して使用を認めており、その使用については、各家庭でのルール作りが最も大切だと感じている。 ・交通ルールの遵守については、駅から学校まで徒歩で通学する生徒も多く、車の通行に注意して登下校することが大切だと感じているが、広がって歩く、スマートフォンを使用しながら歩くといった生徒が見受けられる。また、自転車通学生については、ヘルメットの着用やながら運転を絶対にしない等、注意喚起を行っている。	
達成目標	①　携帯電話の使用に関する自己目標を設定し、それを実行した生徒の割合が70%以上	②　交通ルール遵守について、自己評価による「いつもきちんとできている」と答えた割合が80%以上
方　策	・日頃から、集会において、スマートフォンの使用などについて注意をし、長期休業中の心得などを利用して家庭に対しても、スマートフォンの利用についての注意を呼びかける。 特に携帯電話の使用に関しては、休業中の心得や、学年集会・学年の保護者懇談会を通して、利用の仕方を考える機会を設ける。 ・学校祭では、交通ルールに関する生徒の規範意識を調査し、その発表を通して、今後の指導に役立てる。 ・街頭指導を行い、交通安全について注意喚起を行う。 ・外部講師を招き、講話の中で交通安全規則やルールについて考える機会を持つ。 ・普段から生徒の様子に気を配り、規範意識に欠けた心配な行動があればすぐに注意喚起を行う。	
達 成 度	①　携帯電話の使用に関する自己目標を設定し、それを実行した生徒の割合は、77%であった。	② 交通ルールの順守について、自己評価による「いつもきちんとできている」と答えた割合が 46%であった。
具体的な取組状況	・学校祭において、生徒から、交通に関するアンケートを実施し、八尾高校生の、規範意識を調べた。 ・外部講師を招いて、携帯電話・ネットトラブル防止講座、交通安全講習会を実施した。 ・携帯電話の校内ルール違反があった場合は、違反した生徒が対話を通して考える時間を多く設けて、携帯電話の使用状況とルールの厳守について振り返りを行った。 ・携帯電話の使用・交通に関する意識について、HR などを利用して意識付けを行う予定であったが、時間がとれず、今年度についてはアンケートによる回答が中心となった。	
評　　価	①　B ・目標は超えたが、携帯電話の使用に関するルールそのものを設定していない生徒の割合が全校生徒の 50%だった。	②　B ・自己評価ではあるが、回答者の 98.1%は、いつも・だいたいできてきると答えている。
学校評議員の意見	・携帯電話の使用目標や交通ルールを守ることに対する自己評価が高い点は、真面目な八尾高校生の雰囲気が伺えてよい結果である。 ・統一ホームルームや外部講師による講話などで、生徒の意識を喚起する取り組みが重要。自分を律する自己指導能力が今後一層高まっていくことを期待する。	
次年度へ向けての課題	・携帯電話の使用や交通ルールの規範意識につては、「なぜルールが必要なのか」を自覚させ、自分自身の使用習慣を客観視することができるようにして、課題を見つけるようにさせていきたい。	

（評価の基準　　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

	令和７年度　富山県立八尾高等学校アクションプラン　―３―
重点項目	進路支援
重点課題	（１）学習習慣の習得および定着 （２）早期の進路目標の設定
現　状	・本校の進路状況は、毎年 20 名以上の国公立大学合格者を輩出する一方で、短期大学や専門学校への進学者もおり、進路は多岐にわたる。また、学習習慣が確立されていないまま入学する生徒の割合が約 18%であり、学年進行に伴い家庭学習を行わない生徒は増加する傾向にあり、受験指導上の課題となっている。学習習慣の習得・定着のため学習記録の作成を指導しているが、昨年度の平均記録日数は学年間に大きな差が見られ、新入生を含む全校生徒への指導の必要性を示唆している。低学年の進路意識に着目すると、将来の職業や大学で学びたい分野の研究を主体的に調べている生徒の割合は、２年生、３年生ともに全国平均を下回る結果となっている。これらの状況を踏まえ、本校においては学習習慣の確立、早期からの進路意識の高揚に向けた全校的な取り組みが喫緊の課題であると言える。
達成目標	（１）２学期末の考査期間において、学習記録をつける生徒の割合　80%以上 （２）３学期までに １年生：将来就きたい職業や学びたい学問分野が決定している生徒の割合　70%以上 ２年生：志望校または志望学部・学科が決定している生徒の割合　70%以上
方　策	①　進路行事による進路意識と学習意欲の高揚 ・進路講話や職業研究会、学部学科研究会および総合的な探究の時間における進路探究などを通して、生徒の進路意識を高める。 ・考査１週間前から最終日までを学習記録必須期間として全校で取り組み、その記録を学習指導に活用して学習意欲向上を図る。 ②　進路指導部定例会の活性化 ・進路指導部と学年主任が定例会において情報交換・共有を行うことで、各学年の現状に基づいた問題点を明確化し、具体的な対策を協議・実行する。 ③　進路指導委員会の活用 ・進路指導委員会での校外模試の分析を通じて進路指導の課題を明らかにし、その解決のため、学校全体で共通理解に基づいた対策を講じる。
達成度	（１）対象期間の記録実施率が 80%以上の生徒の割合 １年生 88.3%、２年生 30.8%、３年生 40.1% （２）１年生　職業決定：32.9% 学問分野決定：91.6%（決定 49.7%、複数分野選択 50.3%） ２年生　志望校決定：83.6%（決定 32.9%、複数校選択 50.7%） 志望学部・学科決定：93.6%（決定 52.1%、複数学部選択 41.4%）
具体的な取組状況	①学習記録の入力促進として担任をはじめ全職員で生徒へのこまめな返信を行うとともに、結果の掲示による可視化やクラス表彰を実施し、入力習慣の定着を図った。 ②学年間の連携強化のため、月１回の定例会を実施。各学年の課題や知見を共有する場を設けた。 ③進路指導委員会にて、全体会での課題共有から教科別・学年別分科会へと繋げ、現場に即した具体的方策を話し合った。
評価	C　・学習記録の実施率は、学年が上がるにつれて継続性に課題が残った。 ・進路への関心は高いが、具体的な志望先・職種の絞り込みに課題がある。
学校評議員の意見	・学習記録の作成を指導する試みは、学習への意識づけを測る意味でも評価できる。学年進行につれ実施率が下がっている原因を解明し、改善策を検討してほしい。 ・地域の中の普通科高等学校としての存在意義を何とか保っていると見ている。少子化の中、職員はたいへんよく努力していると感謝している。
次年度へ向けての課題	・高学年における記録率低下への手立てとして、受験指導と連動した記録の活用意義を再提示し、全職員による組織的なフィードバック体制を継続・強化する。 ・志望校や職業を検討中の生徒に対し、比較検討の視点を与えるワークや個別面談を強化し、納得度の高い最終決定へと導く。

（評価の基準　　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

	令和７年度　富山県立八尾高等学校アクションプラン　―４―
重点項目	特別活動
重点課題	・地域の施設訪問やイベントなどへのボランティア活動に参加して、様々な世代や立場の方と交流し、人間的な成長を図るとともに、地域社会の一員としての自覚を持たせる。
現　状	・本校生徒は、多くの地域の方々に支えられて学習活動や部活動を行っている。特に福祉コースでは、地域の方の理解のもと、社会福祉施設の見学や実習等の体験的な学びを行っている。部活動では、吹奏楽部や郷土芸能部が、地域からの依頼を受けて、演技発表や演奏をする機会が多い。 ・福祉コースに限らず、地域での学びの機会があり、ボランティアへの参加を希望する生徒が多い。昨年は、活動参加人数は 125 名(全校に対する割合 29.5％)、延べ人数 312 名がボランティア活動に参加した。
達成目標	・ボランティア参加の延べ人数が、昨年を上回る。 ・全校生徒の１/３の生徒が、ボランティア活動に参加する。
方　策	・グーグルクラスルームを利用し、多くの情報を生徒に提供する。 ・グーグルフォームを活用し、ボランティア希望者の集約、配分を行う。 ・福祉コース以外の生徒にも、ボランティア活動への参加を広く呼びかける。
達成度	・ボランティア参加延べ人数は 175 名（R8.2.2 現在）昨年比 55.9％ ・ボランティア活動参加人数は 141 名（R8.2.2 現在）全校生徒に対する割合 31.4％
具体的な取組状況	・Google クラスルームを利用した情報発信や希望者の集約はスムーズに行われた。 ・延べ人数が減少したのは、今年度、放課後等デイサービス「おむすび」との交流が中止になったり、いくつかの活動をボランティア以外の活動と位置付けたりしたためである。 ・生徒が個人でボランティア活動に参加しているケースも増えている。
評価	B　ボランティア活動に参加した生徒の実人数は昨年より増加し、目標の 1/3 に近づいている。(125→141 名)
学校評議員の意見	・ボランティア活動を通して、様々な世代や立場の人と交流し、人間的な成長や地域と交流することは大切な教育活動であり、参加者が増加していることは好ましい。 ・八尾には、本県を代表する「おわら」や文化的な地域行事「坂の町アート」などがある。これらを生徒の良さを地域にアピールする機会として捉え、高校生として積極的に関わり、本校の良さを発信してほしい。
次年度へ向けての課題	・さらにボランティアの依頼が増えると予想されるので、生徒への情報発信と希望者の集約や配分をよりスムーズに行うようにする。 ・特に１年生へのボランティア活動への参加を促すように新入生オリエンテーションや学年集会などで呼びかけを行う。 ・個人で参加したボランティア活動の担任への報告を徹底させ、生徒の活動をしっかり把握する。

（評価の基準　　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">令和７年度　富山県立八尾高等学校アクションプラン　―５－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">その他（ＰＴＡ活動の活性化）</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">ＰＴＡ研修会への積極的参加</td></tr>
<tr><td>現　状</td><td colspan="2">・本校 PTA（井泉会）は、従来の地区別役員選出を見直し、生徒の出身地域の多様化に対応するとともに、活動内容に対して過剰だった役員数の適正化を目指した。現在は「保護者全員が参加しやすく、負担を分担できる運営」を目指し、新たな体制となって２年目の取り組みを進めている。一方で、総会や研修会の参加率の低下、保護者間の交流不足といった課題もあり、活動の停滞が懸念されている。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="2">・PTA 主催の研修会への参加者数を昨年度比 20%増とすること、また、参加者同士の交流があったと回答した参加者の割合を 80%以上とする。</td></tr>
<tr><td>方　策</td><td colspan="2">・安心安全メール・学年通信、学校ホームページ、役員間のソーシャルネットワークの利用、ポスターなど複数媒体で発信する。
・保護者が興味関心を抱き、交流が深まる研修内容を企画する。
・参加しやすい申し込み方法や時期を設定する。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td colspan="2">・研修委員会が企画・運営した研修会「大人の遠足」には、井泉会役員 11 名、一般会員 0 名の計 11 名が参加した。目標としていた参加者数 19 名（昨年度 16 名からの 20%増）には届かず、参加者を増やすことはできなかった。しかし、実施後のアンケート（回答者 11 名）で参加者同士の交流について尋ねたところ、「十分にあった」4 名、「あった」5 名、「普通」2 名という結果となり、参加者間のコミュニケーションは概ね良好であったと考えられる。</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="2">・研修会「大人の遠足」では、午前に金沢工業大学、午後に石川県立図書館を訪問した。参加者募集にあたっては、保護者全員が加入している「安心安全メール」を活用し、PR ポスターと申込フォームを配信した。また、役員間の SNS（LINE）でも情報共有を行い、周知の徹底を図った。さらに、高啼祭では PTA 模擬店のテントに PR ポスターを掲示し、多くの保護者の目に触れるよう工夫した。それでも参加者が少なかったため、再度「安心安全メール」を配信し、追加の参加者を募った。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>B</td><td>参加者数の増加にはつながらなかったが、参加者間の交流は概ね良好であった。</td></tr>
<tr><td>学校評議員の意見</td><td colspan="2">・研修会の参加者どうしの交流は図られているが、参加人数の確保が課題になっている。今後は保護者のニーズを踏まえ、内容を工夫することが大切。
・ＰＴＡ行事への参加率が低く、その活動が問題となっている中で、マンネリ化せずに、組織を見直し、方策を工夫していることは評価できる。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="2">・参加者の満足度は高かったものの、参加者は 11 名と例年より少なかった。金沢工業大学が「文理融合」を掲げているとはいえ、依然として理系のイメージが強く、文系志望の保護者が参加をためらった可能性も考えられる。事後アンケートの感想にもあったように、今後「保護者が求める研修」を企画していくためには、参加者のニーズを的確に把握することが課題である。</td></tr>
</table>

（評価の基準　　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）